

# 学校経営推進費 事業計画書

## 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	1 生徒の自己有用感、挨拶、マナー、コミュニケーション能力、職業観等の向上（学校教育自己診断） 2 環境問題やボランティア活動に対する意識の向上 3 中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上
計画名	「学校油田」プロジェクト～プラスチックゴミで発電を～SDGsの観点から

## 2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化 (2) 特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒に「自己有用感」を醸成する。 ア 生徒会行事、生徒の自主活動、ボランティア活動や地域連携事業の継続と発展をめざす。 <b>【学校経営推進費】</b> 今年度、新たに「学校油田プロジェクト」の企画を認めていただき、学校経営推進費を獲得した。ペットボトルキャップを油化し、既存のバイオディーゼル発電機の燃料として活用する。防災イベントや被災地で発電をすることで、ライフラインの電気が使えない状況に対する打開モデルとして発信し、活動を充実させていく。 ※ 様々な事業に応募し、その活動を通して生徒の自己有用感を醸成する。	
事業目標	本校生徒に自信を持たせ、コミュニケーション能力を身につけさせる。また、基本的な生活習慣を身につけさせ、進級・卒業率を上げることや、中途退学率を減らす必要がある。 ① 工科高校ならではの「ものづくり」を通じて地域に誇りを持ち、自分にも誇りを持つ。 ② 環境活動を通して学校外で様々な体験をし、基本的な生活習慣を身につけ、コミュニケーション能力等をつける。 ③ 地球温暖化などの環境問題と、自然災害との相互関係について、「学校油田」プロジェクトに取り組むことにより学び、「復興支援プロジェクト」（学校経営推進費事業）で得た防災知識と結びつけ、自助・共助の精神を養う。 ④ ボランティア活動に積極的に参加し、他者から感謝されることにより自己有用感を高める。 ⑤ 地球温暖化防止などの環境問題に取り組み、「プラスチックゴミ」で電気を作り、SDGsの観点から地域や被災地に向けて発信し、環境・防災の拠点校となる。	
取組みの概要	整備する 設備・物品	プラスチックゴミ油化装置一式
	取組内容 前年度	「復興支援プロジェクト」と並行して「エコ・プロジェクト」を立ち上げ、天ぷら油や不要な油を使って発電する機械「バイオディーゼル発電機」（学校経営推進費で購入）を製作して、地域の環境イベントや防災イベントにおいて活用した（大阪府下の高校の食堂で処分に困っている油を使用すればウイン・ウインの関係になる）。被災地（電気が使えない車中泊等）での活用も視野に入れた。結果、生徒が地域の方々に感謝されることにより、自己有用感が高まり、学校に居場所ができ、環境問題やボランティアに対する意識も向上した。これらの取組みをさらに発展・充実させることが課題である。

	初年度	<p>自然災害が多発している昨今、地球温暖化がその一因として挙げられている。そこで、前年度の取り組みである「エコプロジェクト」を発展させ、最近問題になっている「ペットボトル」や「レジ袋」、「食品トレイ」などの「プラスチックゴミ」を粉碎して油化する装置を、専門家の指導・協力のもと製作する。その装置によって出来た油を「バイオディーゼル発電機」の燃料として発電する。つまり、地球温暖化の一因であり処分に困っている「プラスチックゴミ」で電気を作ることが出来て、地球温暖化防止・自然災害防止の一助にもなる。また、被災地にも本プロジェクトを紹介する。この取り組みにより、生徒の自己有用感も高まり、中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上につながる。</p>
	2年め	<p>「プラスチックゴミ油化装置」によって出来た油を精製して、さらに効率よく発電出来る機械「廃油再生燃料化装置」を専門家の指導のもと、製作に取り組む。また、次世代に環境問題について考えてもらうために、子ども用「電動マリオカート」も製作する。「バイオディーゼル発電機」の改良にも本格的に取り組み、これまでの活動に加えて、生徒が製作した「プラスチックゴミ油化装置」及び「バイオディーゼル発電機」・「電動マリオカート」を地域や全国の被災地などで活用することが出来るような体制を作る。プロジェクト参加生徒の増加により迅速な「学校油田」化が進み、生徒の自己有用感も高まり、中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上につながる。</p>
	3年め	<p>地域住民の方々と、近隣の河川及び海の「クリーンアップ」活動を行い、海洋プラスチックゴミ（ドローン（学校経営推進費で購入）の空撮によって、状況を把握する）を回収する。回収したプラスチックゴミを「プラスチックゴミ油化装置」及び「バイオディーゼル発電機」を用いて電気を作る。さらに、学校に「プラスチックゴミ」ステーションを設置し、地域の「プラスチックゴミ」を回収し、発電機の燃料にする。また、作った電気を活用する「充電ステーション」も設け、地域イベントや有事の際の「ドローン」や「スマートフォン」の充電サービスなどもおこなう。自然災害が多発する昨今、有事の際の地域や被災地の電源確保となる。プロジェクト参加生徒の増加により、収集できる「プラスチックゴミ」の量が増え、燃料も増加する。その結果、生徒の自己有用感も高まり、中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上につながる。</p>
	取組みの 主担・実施者	<p>プロジェクトリーダー：進路指導主事・学校設定教科「塚学」主担  学校油田プロジェクト企画・運営：「エコプロジェクト」及び「塚学」担当教員  地域（町会・小中学校等）との連携推進：進路指導部  生徒に対する諸活動：生徒会活動部  プラスチックゴミ油化装置・廃油再生燃料化装置・バイオディーゼル発電機の製作・改良：  機械系・電気系職員</p>
成果の 検証方法 と評価指標	初年度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にない特色がある」「地場産業について学び、体験する機会が多い」（学校教育診断）60%以上</li> <li>2 ・ 学校油田プロジェクトへの参加生徒 40% <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年次エコプログラム作成・実施</li> </ul> </li> <li>3 退学率 11%台にとどめる、1年生の進級率（60%以上）、学校全体の進級卒業率（70%以上）</li> </ol>
	2年め	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にない特色がある」「地場産業について学び、体験する機会が多い」（学校教育診断）65%以上</li> <li>2 ・ 学校油田プロジェクトへの参加生徒 50% <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年次エコプログラムの改良と2年次プログラムの作成・実施</li> </ul> </li> <li>3 退学率 10%台にとどめる、1年生の進級率（65%以上）、学校全体の進級卒業率（75%以上）</li> </ol>

	<b>3 年 め</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1 「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にない特色がある」「地場産業について学び、体験する機会が多い」（学校教育診断）70%以上</li><li>2 ・ 学校油田プロジェクトへの参加生徒 60% ・ エコプログラムの完成</li><li>3 退学率9%台にとどめる、1年生の進級率（70%以上）、学校全体の進級卒業率（80%以上）</li></ol>
--	----------------------	--